

団体ヒアリング結果概要

2026年1月30日

箱根町企画課

次期総合計画・総合戦略の策定に向けて、町の各分野（子育て・教育、交通、観光、高齢者・健康増進、地域、移住、商業、外国人）の事業者・団体に対してヒアリングを実施

団体ヒアリング概要

ヒアリング実施時期	<ul style="list-style-type: none"> 2025年7月～8月
ヒアリング実施先	<ul style="list-style-type: none"> チャレンジクラブ 子ども会育成団体連絡協議会 ざっこの会 星槎大学 星槎大学にほんごカフェ 箱根モビリティサービス株式会社 箱根登山バス株式会社 伊豆箱根バス株式会社 小田急箱根 箱根温泉旅館ホテル協同組合 箱根DMO 箱根元気会 社会福祉協議会 六彩会 仙石原地域自治会 宮城野地域自治会 湯本地域自治会 元箱根地域自治会 温泉地域自治会 ハコネスタイル 小田原箱根商工会議所箱根支部
ヒアリング内容	<ul style="list-style-type: none"> 団体の事業・活動内容 事業・活動に関して感じている課題、課題の要因 今後の事業・活動で展開したいこと、展開に当たって懸念されること 箱根町で目指したい、10年、20年後の町の姿 箱根町に関して感じている課題 行政に期待すること

団体ヒアリング結果 – 分野別の傾向 –

団体分野	課題	要望
子育て・教育	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの減少により、子ども会が解散した地域も出てきている 保護者が活動に参加したがらず、活動の担い手が不足している 	<ul style="list-style-type: none"> 箱根教育については高評価だが、PR不足、町外にもっとアピールできると良い
交通	<ul style="list-style-type: none"> 運転手の人手不足が深刻。渋滞により勤務時間の上限に達してしまうこともあり、シフトを組むことが難しい 	<ul style="list-style-type: none"> 地域貢献・地域住民の移動支援を強化したいが、国の規制などもあり実現が難しい。行政からの補助があると良い
観光	<ul style="list-style-type: none"> 人手不足が最大の課題 ITやDXを活用した省人化をしている事業者もいるが、箱根らしさ（おもてなし）とのバランスを考える必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> 「箱根町だからこそこれがある」という点を計画で打ち出すことが大事 箱根の何を継承すべきかを明確にすべき
高齢者・健康増進	<ul style="list-style-type: none"> 参加者の高齢化や会員の減少が課題 イベント参加時の移動手段がなく、まち全体ではなく地区内での活動にとどまっている 	<ul style="list-style-type: none"> 特産品はないが、箱根の名前をブランド的に使って他の地域と連携しても良いのではないか
地域	<ul style="list-style-type: none"> 自治会の担い手不足、活動への参加者の減少により、自治会行事を取りやめるケースも発生している 	<ul style="list-style-type: none"> 独居高齢者へのサポート、地域での連携が必要 観光業を盛り上げつつ、町にもお金が落ちるようにするべき
移住	<ul style="list-style-type: none"> 移住促進の運営体制の整備が必要。活動資金や貢献に対する具体的・体系的な制度がない 物件が少なく、移住者に紹介できる住宅を探すのに苦労している 	<ul style="list-style-type: none"> 観光もだが、住み続けたいと思ってもらえるまちづくりが大切
商業	<ul style="list-style-type: none"> 商工会議所が中心となって、若手経営者の交流を促進している。 若手経営者のほとんどは移住者のため、いかに彼らを巻き込んで活動できるかが重要 	<ul style="list-style-type: none"> 誘客ではなく受け入れ態勢に目を向けて計画を策定してほしい 働いている人にスポットを当てて、長く住んでもらえるような体制づくりをしてほしい
外国人	<ul style="list-style-type: none"> 出産の手続きや保険、税金など、役場からの通知・情報が理解できない 	<ul style="list-style-type: none"> 現在は星槎大学のほんごカフェでサポートしているが、町の窓口がほしい

団体ヒアリングの中で、町に対して感じている課題として「交通・インフラの課題」、「生活環境・働く場」、「観光と生活の両立」、「行政の課題・要望」に関するものが多く挙げられていた

暮らし

【交通・インフラの課題】

- 湯本を中心に慢性的な交通渋滞があり、出かける際に想定以上の時間がかかってしまう
- 災害時の避難・交通インフラが脆弱で、有事の際の孤立リスクが高い

【生活環境・働く場】

- 医療・買い物・教育など生活の利便性が低く、住み続けにくいと感じる人が多い
- 観光業に依存しており、多様な職種に就ける機会が少ないため、観光以外の産業誘致が必要
- 仕事や住まいの不足、生活の不便さにより、若者が定着しにくい環境となっている
- 団体・地域活動の担い手不足と高齢化の深刻化

観光

【観光と生活の両立】

- 観光客の増加により、渋滞や公共交通機関の混雑などが発生し、住民生活への負担が増加している
- 観光業の発展と自然保護・生活インフラとのバランスが重要
- 「誘客」よりも「受け入れ態勢」の整備（交通・災害時対応・多言語対応）が求められている
- 観光の利益が町民に還元されていない実感がある。観光で得た収益を住民生活に循環させる仕組みが必要

行財政

【行政の課題・要望】

- 行政の予算配分や施策の透明性が低く、住民に見えにくい
- 縦割り組織で連携不足。効率的な支援体制を望む声が多い
- 現行の総合計画は総花的で形骸化しており、実現可能で住民に響く内容に絞り込むべき

団体ヒアリングでは、箱根町の理想の姿として「箱根ならではの教育・文化」、「自然との共生」、「多文化共生と安心・安全なまちづくり」、「観光と住民生活の好循環」がキーワードとして挙げられた

箱根ならではの教育・文化

- 箱根独自の教育や学びの場を作り、自然や文化を次世代に伝える
- 小学校の存続、地域での子育てやコミュニティの継続

自然との共生

- 豊かな自然や生態系（ホタル、森林など）が将来も維持されること
- 自然環境を守りつつ、それを観光・教育・暮らしの資源として活かす
- 観光で得た財源を環境保全に充てる仕組みが望ましい

多文化共生と安心・安全なまちづくり

- 「箱根は安心して暮らせる場所」、「第2、第3のふるさと」と感じられる地域になること
- 独居高齢者や立場の弱い人も安心して暮らせる支えあいの仕組みづくり
- 子どもから高齢者まで世代を超えてつながる
- 行政と民間、地域団体が連携して進めるまちづくり

観光と住民生活の好循環

- 観光産業の利益が住民に還元される仕組み（宿泊税の活用など）
- 観光客と住民双方が恩恵を感じられる交通やサービス設計（公共交通の住民無料化など）